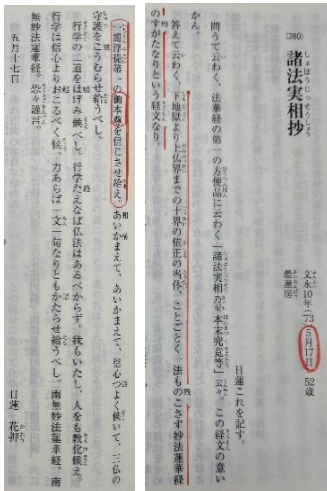


- 4月28日立宗宣言の日、聖教新聞はなぜ、池田先生の本当の講義を理由も示さずに文上からの解釈に改変したのか？聖教新聞も池田先生のご指導「文底が説かれて仏法は完結」を無視した邪義「教学要綱」と同根である！ - 創価高校・大学4期 図斉修

(以下、赤青字、下線は図斉によります)



私は4月28日、拙文 <https://share.google/eB2HSZm0OqQsILz57> を記し、「池田大作 御書と師弟 新版」と大白蓮華の不正の記述を糾しました。そして、その日の聖教新聞のユニスタ記事(学生部教学のページ)掲載の「諸法実相抄」解説を読み、いつもながらの文上だけの作文に失望、怒りを覚え、こんな文上解釈を未来ある学生部に伝えてはならない！池田先生の本当のご指導を厳然と記し置かなければ、との焦りにも似た気持ちになりました。

池田先生の本当のご指導「諸法実相抄」講義には一大聖人の仏法においては諸法実相とは即御本尊の異名(池田大作全集第24巻30頁)一文底独一本門に約せば、御本尊そのものが諸法実相であります(57頁)と明記なのに、聖教新聞はこの池田先生の本当のご指導を示さない！

私は、これでは聖教新聞は画竜点睛を欠き、日蓮仏法を正しく会員に伝えていない！と判断、この不正を新たな拙文にて、世界中の学会員さんにお伝えすべきと、今回の論述となりました。池田先生の本当のご指導には一このように、人法両面から、末法一切衆生の尊敬すべき根本を明かされたことは人本尊開頭の書たる「開目抄」、法本尊開頭の書たる「観心本尊抄」の結論が、ともに、この一書の中に包含されていると、私には拝せられるのであります。(中略)ゆえに、日蓮大聖人の原点に帰ることを根本精神とする我が創価学会は、数ある御書の中でも、特にこの「諸法実相抄」を根幹として、自己の信心の研鑽と、あらゆる指導、活動に取り組んできたのであります。

初代会長牧口常三郎先生も、常に本抄をとおして指導されたとうかがっております。第二代会長戸田城聖先生が、法華経は別にして、まず、私達数人に講義された御書は「諸法実相抄」でありました。私もまた、この講義を受講した一人であります。一(同上14頁)と、記されています。

この池田先生の本意を無視する聖教新聞は池田先生に違背した不知恩の新聞に失墜したと言わざるを得ず、残念でなりません。胸が痛みます。以下、連載④の中心論点である一令法久住一の表層的な文上解説に対し、以下、厳然と破邪顕正します。

池田先生の指導

地涌の使命は、あまりにも大きい。あまりにも重要な。民族や人種、国籍や性別など一切の差別を超越し、生命の大地の奥深くに広がる大きな創造的生命、人類共通のルーツに基き、使命を担い、生きていこう。それに気づくことを「地涌」といいます。いかなる人も尊厳の生命の当体です。互いに励まし合い、輝かしくなが、今の地上に生きる仲間として、自他共の無限の可能性を開き、幸福と平和という価値を創造する底力がある。偉大な使命があるのです。その使命を生かすことを誓って理想社会を築り出すが、私たちのです。(『御書の経典』「御書」に学ぶ「第17巻」)

諸法実相抄 ④

範圍 御書新版：1791頁6行目～1792頁3行目 御書全集：1360頁6行目～17行目

学生部教学のページ「ユニスタ (university x study)」では、前回は引き続き、「諸法実相抄」を研さん。末法において題目を唱え、広布に生き抜く人

は誰もが、使命深き「地涌の菩薩」であることを学ぶ。併せて、学生部が諸法実相抄を通して教学の観点で気づきを昇った経験をつづる「ひらめき☆」を掲載する。



末法にして妙法蓮華經の五字を弘めん者は、男女はきらうべからず、皆地涌の菩薩の出現にあらざるは唱えがたき題目なり。

差異を超える地涌の菩薩の大連帯

布に立ち上がっていくこと。大聖人の「一人立つ」不借身命の御開示によつて、妙法は次第に「二人・三人・百人」と伝わっていった。同様に、師と同じ誓願に燃え「一本物の一人」がいれば、広布の大道がますます開かれることを、ここで教えられていることと拝されよう。

衆生の成仏」という崇高な目的のためには、説かれた法華經であるがゆえに、「法華經の行者」として布に生きることを最高の命に「二人・三人・百人」と伝わっていった。

池田先生 差異を超える地涌の菩薩の大連帯 本物の講義の末法(令法久住)の本義(文底からの真意)が示されていけ!!

最初に本拙文の結論は以下です。一 今回は連載5回の④番ですが、その中心的論述である聖教新聞の一「令法久住(正法を永遠に伝え残すこと)」のため(中略)万人成仏の根本の法である南無妙法蓮華經を弘め抜かれたのが大聖人である一は、以下、池田先生の本当のご指導の記述にある再往文底の真義である「三大秘法の御本尊」の結論を外し、単に南無妙法蓮華經だけを強調した文上だけの不完全な作文である。ゆえに、以下、池田先生の本当のご指導の後半の本義をきちんと読者に伝えなければならない! 池田先生は一

一 文上の流れでみれば、法師品のあとの宝塔品で多宝の塔があらわれ、釈迦、多宝二仏並座のもとに行われた法華經の儀式は、地涌の菩薩に末法の妙法弘通の使命を託すためであったといえます。これが「唯ひとへに末法の令法久住の故なり」と言われている一往の義です。 2/23

これは、しかし、**一往文上の辺であり、化儀の側面**であります。**再往文底からみれば、実はこの中に、末法の衆生を成仏せしめるべき、末法流布の法体が明かされている。**すなわち、家の設計図と家そのものとの関係のごとく、この法華經の二仏が多宝塔中に並座し、虚空会において「妙法蓮華經の旛をさし躰し」「さだめ給」うた儀式が”そのまま”**三大秘法の御本尊**のお姿をあらわしているのです。この本文では「妙法蓮華經の旛」と言われているのがそれであります。

この御本尊こそ末法に流布される法体であり、一切衆生を末法万年尽未来際にいたるまで即身成仏させる秘法であります。「**末法の令法久住**」の文の元意はここにあります。ゆえに「併ら我等衆生を仏になさんとの御談合なり」と仰せられているのであります。(池田大作全集第24巻89頁)一と。

(私見) 聖教新聞は、上記、**池田先生の本当のご指導を全く無視、乖離**しているのです。池田先生のご指導は、**一この御本尊こそ末法に流布される法体一が主意**であり、聖教新聞が一南無妙法蓮華經だけを記し「**御本尊**」を**無視**するのは**池田先生の本当のご指導**への違背、不知恩そのものなのです！そして、聖教新聞の底意は「**教学要綱**」に潜在する**単法本尊論**の邪義— **法宝は『南無妙法蓮華經』** (教学要綱156頁) と同根なのです！

私が、4月28日の聖教新聞を読み、なぜ、上記のような結論、思いに至ったか。それは、僭越ながら**池田先生の本当のご指導**である「諸法実相抄」講義が私の生命に納得、希望、歓喜、そして生き抜く勇気を、まるで渇いた大地に慈雨のごとく与えて下さるのに対し、聖教新聞の作文からは何の感応妙はない。なぜなら**池田先生の本当のご指導**を切り貼りした、まさに**詐心の作文**だからなのです！

池田先生の本当のご指導を消去、変更、改ざんした聖教新聞の作文が、真面目、純粹、必死に生きる学会員さんの生命、仏界を揺さぶることは絶対にできない。学会の世界は、まっすぐな魂と魂の触発、交流、向上のオアシスです。そこには、池田先生を心より尊敬、恋慕される純粹な会員さんが健気に生きてらっしゃいます。そこでは、**池田先生の本当のご指導**しか通うことは出来ないのです。ゆえに、**池田先生の本当のご指導**を無視した聖教新聞の作文は、誰にも感動と勇気、生きる力を与えることは出来ません。

そして、私は、この聖教新聞を書いた方は、日蓮大聖人が極寒の地佐渡で「諸法実相抄」に込められたお心を、本当に分かっているのか？とさえ思います。また、池田先生の講義に記された思いも理解しているのか？と思います。

大聖人様と池田先生のお言葉より、お心を本当に拝したならば、池田先生の講義を変更、削除などできないはずです。池田先生が法華經と大聖人様の御書は**文底から拝しなさい**とご指導されているのに、なぜ、敢えて今、先生の講義を無視し文上解釈にするのですか！池田先生のご講義には**一諸法実相とは御本尊一、一人法一箇の御本尊**また、**一日蓮大聖人の本地は久遠元初の自受用身一**との垂教が溢れています。それら日蓮仏法の真義を聖教新聞は一切記していない。以下、引用します。

「宝塔の中の二仏並座の儀式」すなわち**御本尊を顕されたところにこそ、日蓮大聖人の出世の御本意があった**(中略)「地涌の菩薩の中の上首唱導・上行・無辺行等の菩薩」とは、日蓮大聖人御自身のことであり、**人本尊**をあらわします。また「本門寿量品の事の一念三千」とは、**法本尊**のことであり、**人法一箇**をあらわしております。(39 頁)

上行再誕というだけでは、日蓮大聖人の本地を明らかにしたことにはならない。今この文に「本門寿量品の古仏たる釈迦仏・迹門宝塔品の時・涌出し給ふ多宝仏」うんぬんとある**御本尊の御図顕の持つ意味**を知らなくてはなりません。釈迦、多宝、更に、久遠元初の無作三身如来である南無妙法蓮華経という”仏”の生命をあらわすためには、御自身の内に、その”仏”の生命がなくてはならない。事実、日蓮大聖人御自身「日蓮がたましひ魂をすみ墨にそめながして・かきて候ぞ信じさせ給へ」と仰せられているのであります。人法一箇の御本仏であるがゆえに、**人法体一の御本尊**を御図顕されたのであります。(59 頁)

この「釈尊久遠の弟子」の**「釈尊」とは、一往は法華経本門の教主釈尊であります、再往の辺を拝すれば、久遠元初の自受用報身如来であり、末法御本仏日蓮大聖人**であります。日蓮大聖人は、久遠よりこのかた、地涌の菩薩を教化してこられたという意味です。(中略)この「釈尊久遠の弟子」ということを生命論のうえから言えば、**「釈尊」とは我が生命の内なる釈尊であり、南無妙法蓮華経如来**であります。地涌の菩薩が、釈尊の久遠の弟子であるということは、上行、無辺行、浄行、安立行等の地涌の生命が、奥底の南無妙法蓮華経如来という本源に根ざした働きであることをあらわしているのであります。(77 頁)

すなわち、**この御本尊こそ八万法蔵の仏法の結論**であり、法華経という宇宙根本の法理を事実のうえに作動させた当体であり、この大仏法のコースを歩んでいくなれば、成仏は間違いないと言われているのです。なお、御本尊の相貌に約して言えば**「妙法蓮華経の旛」とは中央の「南無妙法蓮華経 日蓮**」をさし「釈迦・多宝の二仏大将として」がその左右にしたためられている仏界の代表を意味しております(89 頁)

法華経が、せんずるところ、日蓮大聖人お一人のために説かれたものであったということでもあります。あの荘厳な虚空会の儀式、釈迦、多宝の二仏並座、十方分身の諸仏の来集等々、すべて「**末法の令法久住の故**」であり、「我等衆生を仏になさんとの御談合」であった。すなわち一往は上行再誕、再往は本地**久遠元初の自受用報身としての日蓮大聖人御自身**のために行われた儀式であり、諸仏の来集であった(96 頁) ーと。

私は、再度、以下を心肝に染めます。池田先生は講義で、諸法実相抄の最初の御文一問うて云く法華経の第一方便品に云く「諸法実相乃至本末究竟等」云云、此の経文の意如何 一の講義の末尾で、以下ご指導です。

一たとえ諸法実相の哲理を知ったとしても単なる観照の哲学に終われば、それも理の範疇にとどまる。それを希望の方向へと向け、価値創造し、幸福へと蘇生させていく方法として、日蓮大聖人は御本尊を顕されたのであります。すなわち、諸法は実相であることの法理を、日蓮大聖人の魂魄をとどめて御本尊という当体のうえに具現化されたのであります。それは、もはや諸法実相という法理ではなく、日蓮大聖人の御本仏の生命それ自体の諸法実相であります。御本尊を「事の一念三千」と申し上げるゆえんは、ここにあるのであります。ゆえに、諸法実相とは、一往は、諸法はそのまま妙法蓮華経という真実の姿であるという観照の哲学のようでありませんが、再往、文底観心のうえから言えば、御本尊こそ諸法実相という大宇宙の縮図であり、大聖人の仏法においては、諸法実相とは即御本尊の異名なのであります。(同 19,20 頁) 一 と。

また、講義の最後に、御書、最後の御文一此文には日蓮が大事の法門ども・かきて候ぞ、よくよく見ほど解かせ給へ・意得させ給うべし、一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給へ、あひかまへて・あひかまへて・信心つよく候て三仏の守護をかうむらせ給うべし、行学の二道をはげみ候べし、行学たへ絶なば仏法はあるべからず、我もいたし人をも教化候へ、行学は信心よりをこるべく候、力あらば一文一句なりともかた談らせ給うべし、南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経、恐恐謹言 五月十七日 日蓮 花押

一について、「日蓮が大事の法門」ということについては、講義の最初で述べたとおりです。(中略)「よくよく見ほどかせ給へ」とは、深く理解していきなさいということです。「意得させ給うべし」とは、生命に刻んで、この御書どおりの振る舞い実践をしていきなさいとの御教示です。「一閻浮提第一の御本尊」です。大聖人の仏法が一閻浮提第一であり、大御本尊がその肝要中の肝要であることは絶対に間違いありません。(106, 107頁) 一と。(私見) 池田先生の本当の講義は、最初も最後まで御本尊をご教示なのです。それを、聖教新聞は一時も忘れてはならない！ 5/23

私は、ユニスタの連載①②③も読みましたが、結論、そこには御本尊の記述がほとんどなく、あっても池田先生がご指導された御本尊の記述ではありません。わずかにあった①の記述—大聖人は「法界のすがたは、妙法蓮華經の五字にほかならない」と結論づけられている。法界—私たち衆生と環境を包含する千變万化の全宇宙は、妙法蓮華經の一法から開かれ、妙法蓮華經の一法に帰着するのだ。本抄の次の範囲からは、大聖人が顕された御本尊について、言及されていく。法華經の「諸法実相」の法理が、大聖人によって、末法の万人成仏のための大法へと開かれていくのだ—と。

(私見) 上記、最後に大法へと勝手に書いている。講義原本で、池田先生は三大秘法の御本尊とご指導されているではないですか！これでは法から大法へと同じ法をただ誇張しただけの理法であり、事の一念三千の当体である御本尊への確定表現ではないです。

また、③の—「本門寿量品の古仏たる釈迦仏……地涌の菩薩等をまず作り顕し」とは、文字曼荼羅の御本尊を顕されたことを指している。—は、以下(次ページ)に記された池田先生の本当のご指導をなぜ省いたのでしょうか？これでは読者は「古仏」とは釈尊なんだと間違った認識をしてしまいます。そうさせたいのですか？これは一体なんなんのでしょうか？

池田先生のご指導が間違えとでもいうのでしょうか？だから書き換えたのでしょうか？また、こんなわからない表現で学生部の皆様に伝わりますか？何故、池田先生の獅子吼—諸法実相は御本尊—と明確、ストレートに学生部に伝えないのでですか？私は悲しいです。池田先生の本当のご指導を変更、削除、改ざんするのはもう止めて下さい。

以下、古仏=日蓮大聖人であることの文証と、池田先生の講義を引用します。いかに、聖教新聞が不正であるかが判明です。

むしのごぶつ【無始の古仏】 久遠の仏のこと。無始の本仏ともいう。御本仏、日蓮大聖人のことをいう。無始とは始まりが無いとの意で、末法の寿量文段下種の義では久遠元初をさす。観心本尊抄に「我等が己心の釈尊は五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり」(二四七頁)と述べられ、観心本尊抄文段には「我等が己心の釈尊は五百塵点の当初、名字凡夫の御時所顕の三身にして無始の古仏なり云云。これ即ち久遠元初の自受用身、報中論三の無作三身なり」(文段集四九〇頁)とあるように、三身相即の久遠元初の自受用報身如来、御本仏、日蓮大聖人が無始の古仏となる。

仏教哲学大辞典第三版(2000年11月18日)には
一無始の古仏は久遠元初の自受用報身如来、御本仏、日蓮大聖人と明示です。

そして、「諸法実相抄」講義(池田大作全集第24巻58-60頁)題目を流布し**御本尊を建立**一には以下ご教示です。一**日蓮・末法に生れて上行菩薩の弘め給うべき所の妙法を先立て粗ひろめ、つくりあらはし給うべき本門寿量品の古仏たる釈迦仏・述門宝塔品の時・涌出し給ふ多宝仏・涌出品の**

時・出現し給ふ地涌の菩薩等を先作り顕はし奉る事、予が分齊にはいみじき事なり、日蓮をこそ・にくむとも内証には・いかが及ばん(通解) 日蓮は末法の世に生まれ、本化上行菩薩が弘めるべき本門の題目すなわち「妙法蓮華経」を先立ちでほぼ弘め、また作り顕すべき本門の本尊すなわち「**本門寿量品の古仏である釈迦仏と述門の見宝塔品の時に現れた多宝仏、そして涌出品の時に出現した本化地涌の菩薩等**」をまず作り顕したことは、自分としては分に過ぎたことである。このような日蓮をどんなに憎む者でも、日蓮の内証には何人といえども及ぶものではないであろう。

(講義) 末法流布の三大秘法の題目を、ほぼ弘め、同じく**三大秘法の御本尊を建立した**ことを述べられております。それは、法華経の文の上から言えば、本化地涌の菩薩の上首上行菩薩がなされるべきことですが、凡夫僧である日蓮大聖人は、御自身がその上行の再誕であるという表現は避けて、その先駆けとして「先立て粗ひろめ」また「先作り顕はし奉る」と言われたのであります。(中略) 今この文に「**本門寿量品の古仏たる釈迦仏・述門宝塔品の時・涌出し給ふ多宝仏**」うんぬんとある**御本尊の御凶顕の持つ意味**を知らなくてはなりません。**釈迦、多宝、更に、久遠元初の無作三身如来である南無妙法蓮華経という”仏”の生命をあらわすためには、御自身の内にその”仏”の生命**がなくてはならない。事実、**日蓮大聖人御自身**「**日蓮が魂を墨にそめながして・かきて候ぞ信じさせ給へ**」と仰せられているのであります。**人法一箇の御本仏であるがゆえに、人法体一の御本尊を御凶顕されたのであります。そこに、大聖人の「内証一内なる覚り」がある。**一と。

(私見) 上記より、「**本門寿量品の古仏たる釈迦仏**」の「釈迦仏」とは**久遠元初の無作三身如来、即ち、日蓮大聖人と拝せるのです!** 7/23



楊枝本尊

以下、須田晴夫著「新版 日蓮の思想と生涯」207 頁には、日蓮大聖人が佐渡流罪出発の前日、文永 8 年 10 月 9 日に、「楊枝本尊」を凶顕されたことが記されています。(左写真も著作より引用) 余談ですが、大聖人様が楊枝御本尊を顕された翌日の 10 月 10 日、私が在住する所沢市久米にご宿泊との資料を <https://share.google/KLhL8yv2Dnzh2XZMB> の 41 頁から 60 頁に記しました。私の最高の誇り、喜びであり、それ故に私は大聖人様が佐渡で記された重書「諸法実相抄」への尊崇の思いは大きいです。さらに僭越ながら、池田先生がこの書が人本尊と法本尊の意義を含むと垂教され、私は、大聖人様が生きて帰れるかわからない佐渡配流の直前に、楊枝、つまり、木の枝で御本尊を顕された深義を拝察申し上げる時、聖教新聞は御本尊について、本当に真剣に記すべきとの思いがいや増して募ります。又、この重書が流罪から 1 年 7 ヶ月後の 5 月 17 日に記されたこと、実は、私の誕生日であることも誇りでございます。

また日蓮は、佐渡流罪の処分が最終的に確定した後、佐渡に向けて出発する前日の文永八年十月九日に初めて文字曼茶羅を凶顕している。この曼茶羅は、身辺に筆がなかつたためか「楊枝」で記されており(当時は柳などの木の枝の一端をかみ砕いてブラシ状にし、口中の汚れを取るのに用いた。これを房楊枝と呼ぶ)、そのため「楊枝本尊」と称される(京都・立本寺蔵)。

中央に「南無妙法蓮華經」の首題が大書され、その向かって左に「日蓮(花押)」の名が示されている。左右の肩に梵字で不動明王と愛染明王が記されているが、釈迦牟尼仏・多宝如来を含めて後の曼茶羅に記されている十界の諸尊も四天王も一切書かれていない。もつとも簡略な形の曼茶羅である。しかし「文永八年太歳辛未十月九日」「相州本間依智郷 書之」と、日付および凶顕の地が明記されている。

楊枝本尊はもつとも簡略な形の曼茶羅であるため、その相貌には日蓮凶顕の曼茶羅の本質が表れている。すなわちこの最初の文字曼茶羅の相貌は、文字曼茶羅の本質的要素が南無妙法蓮華經と日蓮花押にあり、釈迦・多宝の二仏は略されてもよい派生的なものであることを物語っている(二仏を略した曼茶羅は日蓮真筆の曼茶羅でも数幅存在する)。もちろん日蓮は御書の随所において釈迦仏を宣揚しているが、それは浄土教と密教が優勢であった当時、ともすれば阿弥陀仏や大日如来に傾きがちな人々を導くための教示であって、本尊という日蓮仏教の本質的・根本的次元を見た場合、決して釈迦が本仏となることはない。楊枝本尊の相貌はその裏づけの一つといえよう。

大聖人様は、竜の口法難で発迹顕本され久遠元初自受用身として御本尊の御凶顕が開始されました。そして翌年、佐渡において人本尊開頭の書「開目抄」を、またその翌年、法本尊開頭の書「観心本尊抄」を記され、その直後、両書の意義を合わせられた「諸法実相抄」を顕わされたのです。

池田先生の「諸法実相抄」講義の 94, 95 頁には、日蓮大聖人への思いが、以下記されています。— 御本仏の御境界を吐露 「**此くの如く思ひつづけて候へば流人なれども喜悅はかりなしうれし嬉きにも・なみだ・つら痛きにもなみだなり涙は善悪に通ずるものなり**」

(講義) 法華経を身をもって読みきられた、御本仏の絶対的な御境界を吐露された御文であります。誠に日蓮大聖人の御文は、名文であります。読むたびに、私達の胸中に、慈父の響きと、広布の大感情が込み上げてまいります。しかも大聖人の文章は、いわゆる机上で作られた美文ではありません。**文は生命なり、文は境涯なり—としみじみと痛感させられるのであります。あの流罪の地・佐渡において、地獄のどん底と思われるような御生活にあって、なお全宇宙をも包まんばかりの御境界で、お手紙をおしたためになる御心境は語るすべもないほどです。**—と。

私は、上記池田先生の講義、ご心境を拝読する時、聖教新聞の「諸法実相抄」解説のあまりにも酷い連載に怒りを覚えます。池田先生の本当のご指導には、**日蓮大聖人は久遠元初の自受用身**である、即ち、**日蓮本仏論が明確**なのです。それなのに、聖教新聞の連載は日蓮本仏論の重要義が悉く無視され、文上の解説で終始しているのです。これはまさしく、聖教新聞の執筆の底意に、「教学要綱」と同じく**釈迦本仏論が潜伏**しているのです。ゆえに、私は、この度も日蓮仏法の真義と池田先生のご指導を厳守するべく、池田門下生の使命と責務より、破邪顕正をします。

この聖教新聞の解説の不正について、**若き俊英、親友 A 氏**(40代)に感想を求めたところ、以下の論考を頂きました。—

図斉様、本当にその通り過ぎて、この**聖教記事の諸法実相抄講義**はもはやコントロールレベルです。

私も改めて御文の拝読と、池田先生の 1977.1 月の名講義の要所を読みました。

池田先生は「人・法両本尊の結論がこの一書のなかに包含されている」と仰っています。

「日蓮大聖人の御本仏の生命それ自体の諸法実相であります。(略)故に、**諸法実相とは、即御本尊の異名**なのであります。」と。

そもそも御文の本文冒頭に「**十界の依正の当体・悉く一法ものこさず妙法蓮華經のすがたなり**」そして「**万法の当体のすがたが妙法蓮華經の当体なりと云ふ事を諸法実相とは申すなり**」と大聖人は仰っているわけで、これこそが**人法一箇**そのものではないかと。

この御書を与えられた最蓮房さんが、日付的に直前の観心本尊抄を読まれていたかはわかりません(流石に難しいか)が、誤解を恐れずに申し上げれば、今の我々ならばこの諸法実相抄はわかりやすさで言えばハッキリ言ってとてもわかりやすい御書の代表くらいに思えます。

それほど、すらすらと「ああ、御本尊様のことが説明されているのだ。」と読むことができると思います。

そして本抄の最後に「**一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給へ**」とある通り、この御書は全編を通じて「**(人法の)御本尊**」を説いて下さっている御書ではないかと。

更に言えば、釈尊をも仏にし、**釈尊が顕せていなかった御本尊を作り顕わした人である大聖人様が御本仏である道理しかない**ではないかと。

これまで学んで来た人にとっては**人法一箇**や御本尊根本が前提として有るから、この記事などを読んでも脳内で勝手に補完されてしまうのでしょう。しかし、今から、これから教学を学ぶ人にとっては本当にペテンでしかない。確実にこれから先の世代の会員とは水火天地の違目の如き乖離が生じます。

具体的にはユニスタ②の小題

「●万人成仏の道を開く」の最後に、
「上行菩薩の使命を果たした～」と、外用である上行菩薩を強調し、その後の「**本門寿量品の事の一念三千の法門**」については、ただ記してるだけで何も解説しない。

そして小題「●それぞれの挑戦」の冒頭では、池田先生の指導がありますが、これが凶齋様や中村様も破邪顕正のためによく引用される「南無妙法蓮華経は最極の真理の名前です」という、いわゆる単法本尊への誘引のために使われている指導かと思います。これは今後も執拗に多用されて行くのではないのでしょうか。

これでは大聖人は本文にて、いったい何のために「妙法蓮華経こそ本仏にては御座候へ」とご教示くださったのかと。

私の感覚でしかない持論かも知れませんが、大聖人は御書で「秘すべし」や「己心の大事」「日蓮が身に当て」等を末文に添えられているものは、全て『**文底**』**独一本門**を説かれているものと理解しています。

教相(文上)の仏教知識しかない当時の僧(学者)らが読んだら、まさに耳目を驚動する内容だからですよね。(当時の最蓮房さんも当然まだその中に含まれていたことでしょう。)

だから「凡夫即極」なんて直ぐに理解できるわけがないと、それはそれは慎重に表現されたのだと思います。

だがしかし。本文中程の「日蓮をこそ・にくむとも内証には・いかが及ばん」との御文はどう読み、どう理解しようというのでしょうか？

この「内証には、いかが及ばん」について記したく思います。

これこそが日蓮仏法たる、大聖人という御本仏の文底からのお言葉です。これについて論じれる人は日興門流の正統を受け継ぎ広め抜かれた三代会長を除いてこの世に居られません。

私が今まで学んできた創価三代の師匠の教学をもって以下論じてみます。結果、教学要綱の破折にもなっていると思います。

この「内証」とは、言うまでもなく大聖人が竜の口の法難によって、それまでの上行菩薩の再誕という立場を払って本地たる久遠元初・自受用報身如来という根源仏としての活動を開始していく決意に立たれたことです。これが発迹顕本の真義です。 11/23

開目抄に「日蓮といひし者は去年九月十二日『子丑の時』に頸はねられぬ、此れは『魂魄』・佐渡の国にいたりて」とある通りです。

また、上野殿御返事(旧版 P1558)に「三世諸仏の成道は ねうし(子丑)のをわり・とら(寅)のきざみの成道なり」とあり、これはこの御書の冒頭で「種種の大難の中には竜口の頸の座と・東条の難にはすぎず」と始まることから、その時を持って大聖人こそが久遠元初の本仏たる御自覚に立たれたものと拝しております。

戸田先生が仰っていたように、いわゆる **16 歳の時の清澄寺での虚空蔵菩薩からの明珠によるお悟り**、そして 32 歳での立宗宣言時の「日蓮」と名乗られた**自解仏乗**と、既にその御自覚があったからこそ題目の流布をされて行かれたわけですが、「本当に間違いない」と確信し切るために必要だったのが、法華経の行者として身読し、難を受け切ったの証明をなされることだったのだと思います。

更に付け加えれば阿仏房さんの奥様である千日尼に与えられた妙法曼陀羅供養事(文永十年)(旧版 P1305)には「**此の曼陀羅は文字は五字七字にて候へども三世の諸仏の御師(略)成仏得道の導師なり。**」とあります。

これは、大聖人が発迹顕本して御本仏の境地に立たれたその瞬間において、釈尊を含めた三世の諸仏は皆悉く成仏できたとの仰せと拝せませす。

つまりは、**南無妙法蓮華経とはもちろん「法」の名前のことであるが、同時に「仏」という師匠のことでもあり、そのお方のお名前です。人本尊を認めなければ成仏は有り得ないことになります。**だって「仏を成(ひら)く」その本体は「人間」なのですから。

え？誰のお名前か？ですって？もう言わずもがなですよ笑

故に諸法実相抄本文で「**釈迦・多宝の二仏と云うも用の仏なり**」と。

観心本尊抄でも明快です。観心本尊抄に「**我が内証の寿量品**」とありますが、これが三大秘法の事の一念三千の南無妙法蓮華経であり、その内の本門の本尊であることは言うまでもなく、この「我」は観心本尊抄を最後まで読めば、大聖人のことだとわかります。 12/23

(そもそも、この前段で既に大聖人は「私に会通を加えば」と、御自身の解釈、つまりは『文底』を説いているのであり、文上での読解など、お話にならない邪義であることは今まで教学を少しでも学んで来たことがあれば絶対にわかるではないか！)

何故かならば、「**其の本尊の為体 本師の娑婆の上に宝塔空に居し〜**」との御本尊の相貌のご説明に「**本師**」とあり、宝塔とは有名な阿仏房御書に「**妙法蓮華経より外に宝塔なきなり、法華経の題目・宝塔なり宝塔又南無妙法蓮華経なり。**」と。そのご説明のままに御本尊を拝せば、『**南無妙法蓮華経 日蓮**』と中央に大書されております。

そして極め付けは、観心本尊抄の総結にてあまりにも有名な「**一念三千を識らざる者には『仏』大慈悲を起し〜**」と、御自身のことを「**本師**」そして「**仏**」と大宣言されていらっしやるわけです。

(私は教学要綱がこの「**本師**」を無視したことが本当に致命的であり、**日蓮大聖人を御本仏としない大宣言に等しいことをした大罪と断じます**。まさに創価学会の信仰の根幹のことですから。)

故に、同送状には「**此の事日蓮身に当るの大事なり之を秘す**」と。

「**未聞の事なれば人耳目を驚動す可きか**」と、細心の注意を払われていますが、これをもって大聖人のことを御本仏と拝さずして何とするのでしょうか。

話を戻し、諸法実相抄の、この大聖人のお言葉が今の私には、「いくら須田晴夫氏の考察や、宗学コラムの図斉様の論考に対して、ムキになって怒ってわめいたところで、戸田・池田両先生の指導及び真実には何を言ってもどうしようもない」と聞こえてくるようです。

まさか創価学会の中で、「今の教学はおかしいぞ。先生の仰っていることと違うぞ。本部はおかしくなってるぞ。」なんて、それこそ活動家会員が耳目を驚動することになることを言わねばならない事態になるなど思いもしないことでした。

学べば学ぶほど、須田晴夫氏の魂の諫暁への厳たる現代の迫害の様相を目の当たりにした今、生命でわからざるを得ない感覚に、どうしようもない怒りと共に、いよいよ勇気と信念を貫くぞ、という思いに駆られ続けています。

有名な経王殿御返事(文永十年八月)に「**日蓮が・たましひは南無妙法蓮華經に・すぎたるはなし**」とある通りです。

冒頭に引いた先生の講義の「日蓮大聖人の御本仏の生命それ自体の諸法実相であります。(略)故に、諸法実相とは、即御本尊の異名なのであります。」が、本当に納得できると思うのです。

日蓮仏法においては**本尊=本仏であり、人法一箇**を否定は元より、省いて説明することは不可能であると断言できます。

その当体は別しては大聖人であり、総じてが勿体なくも御本尊を信じ自行化他に亘って南無妙法蓮華經と唱え行く、凡夫仏たる私たち大聖人直結の池田門下生ということですよ。

それこそが現代における諸法実相抄の拝し方とっております。一と。

(私見) 上記、**親友 A 氏**の論考は非常に分かりやすく、「諸法実相抄」の本義—**日蓮本仏論**—を理解され、私たちにこの重書をさらに身近に感じられることを教示されています。まさに、破邪顕正への正論、秀稿と拝します。

また、親友**中村誠氏**からも以下、頂きました。一

この御書ですが、重要箇所は次の部分です。「**釈迦・多宝の二仏と云うも用の仏なり、妙法蓮華經こそ本仏にては御座候へ**」。それでは釈迦は迹仏で、妙法蓮華經が本佛なのかと思いきや、一方でこうあります。「**神通之力は用の三身にして迹仏ぞかし、凡夫は体の三身にして本仏ぞかし**」。即ち、妙法蓮華經即凡夫という**人法一箇**を説いております。**単法本尊ではありません**。そして続きにこうあります。

「日蓮は其の座には住し候はねども経文を見候に・すこしもくもりなし、又其の座にもや・ありけん凡夫なれば過去をしらず」要するに、凡夫＝大聖人であると文脈から確認できます。まともな読解能力があるのであれば、この御書は人法一箇、日蓮本佛論を説いていると理解できるはずです。ですから当然身延側は、大崎ルールを用いてこの御書を偽書扱いしています。なぜ単法本尊を説く執行部がこの御書を持ち出しているのか不明ですが、これを用いて教学要綱を正当化しようというのであれば、学会員を相当見下しているのではないかとさえ思えてしまいます。文脈からこの御書は教学要綱の本尊観とは完全に矛盾することは明らかです。

また、— <https://www.sokayouthmedia.jp/answer/2825023.html> に記述の一

「須田氏は『釈迦と日蓮に上下・勝劣はないというのであれば釈迦を拝んでも何ら問題ないことになってしまう』と主張しているが、創価学会においては、釈尊も日蓮大聖人も『拝む対象』ではない。氏は『本仏』と『本尊』の概念を混同しているといえる」(創価男子部教室)。しかしこの御書には「妙法蓮華経こそ本仏」(旧版御書, p. 1359)とあります。妙法蓮華経が本佛ならば、本仏が祈りの対象とならないわけがないということです。この御書は古写本がないから偽書なんだけど、教学要綱にあわせて、文脈を無視して都合よく切り取って、会員に教えるのであれば、そうした態度が御書根本といえるのか、いつ、どこで、そんな欺瞞じみた行為を池田先生が教えたというのか説明せよ、という追撃が可能になります。そもそもこの御書には、釈迦はあくまでも述仏であり、働きを顕すものでしかないと言っており、釈迦という脇士が題目と共に本尊となるといった教学要綱の教えはどこにもない、という追撃も可能です。百歩譲ってこの御書が偽書だとしても、脇士即本尊という教学要綱の理論は根底から壊れている、とも追撃できます。—と。(私見) 中村氏の論考、視点は鋭いです。まさに、正論と拝します。 * * *

私は、上記を拝し、須田晴夫氏の著作「新版日蓮の思想と生涯」の論考こそ、「諸法実相抄」の本義—日蓮本仏論—を明確に記されていると再確認しました。引用致します。(228, 229頁)には—

「観心本尊抄」執筆後に書かれた重要御抄としては、本尊抄の翌月、文永十年五月に執筆された「諸法実相抄」がある。本抄は、最蓮房に対して諸法実相の義を説くことを通して人本尊と法本尊を示しており、いわば「開目抄」と「観心本尊抄」の結論を要約する趣になっている。それは次の文に明らかである。

「地涌の菩薩の中の上首唱導、上行・無辺行等の菩薩より外は、末法の始めの五百年に出現して法体の妙法蓮華經の五字を弘め給うのみならず、宝塔の中の二仏並座の儀式を作り顕すべき人なし」(二三五八頁)

ここでは地涌の菩薩の上首こそが、南無妙法蓮華經の法体を弘通し、曼荼羅本尊(「宝塔の中の二仏並座の儀式」(法本尊)を顕する主体(「人本尊」)であることが明示されている。その主体について、具体的には日蓮自身であることが明示される。このことは次の文に明らかである。

「日蓮、末法に生まれて上行菩薩の弘め給うべき所の妙法を先立つてほぼひろめ、つくりあらし給うべき本門寿量品の古仏たる釈迦仏、迹門宝塔品の時涌出し給う多宝仏、涌出品の時出現し給う地涌の菩薩等をまず作り顕し奉ること、予が分齊にはいみじきことなり」(二三五九頁)

また、「天台・妙楽・伝教等は心には知り給えども言に出だし給うまではなし。胸の中にしてくらし給えり。それも道理なり。付嘱なきが故に、時のいまだいたらざる故に、仏の久遠の弟子にあらざる故に」(二三五八頁)との文は、日蓮が天台・妙楽・伝教等もなし得なかつた妙法五字の弘通を行う末法の教主であることを示すものといえよう。

さらに本抄で注目されるのは、「釈迦迹仏」「凡夫本仏」の思想が明確に打ち出されていることである。それは次の文に明らかである。

「釈迦・多宝の二仏と云うも、妙法等の五字より用の利益を施し給う時、事相に二仏と顕れて宝塔の中にしてうなずき合ひ給う」(二三五八頁)

「されば、釈迦・多宝の二仏と云うも用の仏なり。妙法蓮華經こそ本仏にては御座候え。經に云わく『如来秘密神通之力』これなり。『如来秘密』は体の三身にして本仏なり。『神通之力』は用の三身にして迹仏ぞかし。凡夫は体の三身にして本仏ぞかし。仏は用の三身にして迹仏なり。しかれば、釈迦仏は我等衆生のためには主師親の三徳を備え給うと思ひしに、さにては候わず。返つて仏に三徳をこうらせ奉るは凡夫なり」(同頁)

虚空会の会座において宝塔の中に並坐した釈迦・多宝は迹仏であり、妙法蓮華經と凡夫が本仏であるとす。この妙法蓮華經と凡夫とは、曼荼羅本尊の相貌に約して言う場

合は曼荼羅の中央にしたためられた「南無妙法蓮華經 日蓮」に他ならない。すなわち、この文は、曼荼羅本尊の相貌と照らし合わせて解するとき、まさに「日蓮本仏」の根拠となる文といえよう。

もちろん、この「凡夫」を広く解する場合は、日蓮の門下として南無妙法蓮華經を受持し、弘通する人々を指す。まさに妙法を弘通する凡夫こそ現実に実在する仏（本仏）であり、經典に示される諸仏は仏の生命の働き（用）を示すために説かれた架空の仏（迹仏）に他ならない。

この凡夫こそが現実の仏であるという「凡夫本仏」の思想は、「超越的な存在である仏によって救済される凡夫」という従来の仏教の觀念を覆す革命的な思想である。ここに、人間の尊嚴を謳う日蓮仏法の真髓が表れている。

本抄の一つの特徴は、日蓮とその門下が地涌の菩薩に当たることを明示していることである。その点は次の諸文に明らかである。

「地涌の菩薩のさきがけ日蓮一人なり。地涌の菩薩の数にもや入りなまし。もし日蓮、地涌の菩薩の数に入らば、あに日蓮が弟子・檀那、地涌の流類に非ずや」（一三五九頁）、

「日蓮と同意ならば地涌の菩薩たらんか。地涌の菩薩にさだまりなば釈尊久遠の弟子たることあに疑わんや」（一三六〇頁）、

「皆地涌の菩薩の出現に非ずんば唱えがたき題目なり。日蓮一人はじめは南無妙法蓮華經と唱えしが、二人三人百人と次第に唱えつたうるなり。未来もまたしかるべし。これあに地涌の義に非ずや」（同頁）

地涌の菩薩が末法弘通の主体者であることは「観心本尊抄」の後半で強調されたところであるが、「諸法実相抄」においてはさらに具体的に、地涌の菩薩とは日蓮とその門下であることが明示されることとなった。本抄の教示を踏まえるならば、師である日蓮と同じく自身も地涌の菩薩であるとの自覚こそ、日蓮門下として日蓮仏法を實踐する者の信仰の要となる。すなわち、自身が広宣流布の主体者であるとの自覚である。僧侶に依存して祈禱を依頼する類いの「おすがり信仰」は、日蓮仏法の実践とはおよそ無縁といわなければならない。

（私見）以上、須田晴夫氏の論考は、池田先生がご指導の「諸法実相抄」講義の真義一日蓮本仏論一を明快に記されています。私は、「法華經の智慧」の鼎談者である須田晴夫氏の論考こそ池田先生への報恩、赤誠の証であると拝します。

それに反して、この度の聖教新聞の池田先生への不知恩の勝手な、変更記述！

私は具眼、正眼の学会員さんのご高覧を拝し、さらに正邪を明らかにして参ります。

以上、聖教新聞の「諸法実相抄」解説の不正を糾すの論述を終えます。

池田先生の本当のご指導は以下です。－

誓願に貫かれた大聖人の御生涯 智慧の宝珠「御書の世界」(上)(池田大作全集第32巻)には一「**智慧の宝珠**」の体験、御修学、そして立宗

斎藤 誓願を立てた若き大聖人は、必死に祈り、研鑽されました。そして、**十六歳**で正式に出家してから程ないころ、清澄寺の**本尊の虚空蔵菩薩像**に祈願し、その虚空蔵菩薩から**明星のような「智慧の宝珠」**を得られたと、御書にあります。その智慧によって、当時の八宗・十宗の教義の大綱を把握できたと仰せです。

池田 諸宗、諸経の肝要を知る智慧とは仏法の根本にかかわる智慧です。

要するに、妙法の智慧を開かれたのです。民衆を根本から救いたいとの大誓願を持ち、必死に求道され、開覚されたのです。

斎藤 仏の悟りを開いたと拝察していいのでしょうか。

池田 わが身の法性を、豁然と開覚されたと拝することができます。

凡夫の身に仏性を開かれたのです。

斎藤 弱冠十六歳の若さで、悟りが得られるものでしょうか。

池田 どうすれば民衆を救えるかという深く真剣な祈りのゆえに、**智慧の宝珠を得られたと拝される。大事なことは、大聖人が、それを到達点とされたのではなく、この悟りを出発点として、さらなる求道の道に入っていたこと**です。

斎藤 三十二歳の立宗まで、鎌倉や比叡山などで修学されます。

池田 大聖人の誓願は、恩ある人々を救うために日本第一の智者になりたいということです。その誓願を、御遊学を通して、末法全体を救済したいという誓願に深められていった。そして、広宣流布の大願として確立され、立宗宣言に至る。**自分だけ悟りに安住するのは、ある意味では簡単です。大聖人の場合は、常に民衆を救い、末法の時代を現実に転換するための智慧を求めておられる。自分に悟りがあったからといって、それで終わりではない。常に「誓願」があって「悟り」がある。立宗後も、大難を越えられながら誓願を貫くことによって、悟りを深められ、ついには発迹顕本されて、末法の御本仏の御境地を顕されていくのです**—と。 19/23

上記の一番重要な文～池田 要するに、妙法の智慧を開かれたのです。
斎藤 仏の悟りを開いたと拝察していいのでしょうか。池田 わが身の法性を、
豁然と開覚されたと拝することができます。凡夫の身に仏性を開かれたの
です一を、聖教新聞は省いて、黒字だけ引用の不正確な引用なのです！

「観心本尊抄」講義 虚空蔵菩薩（池田大作全集第24巻）

胸中に赫々たる久遠の本地大聖人は竜の口、佐渡の法難をもって、法華
経に記されている外用の辺の予言をすべて身読し終わり、御自身、久遠御
本仏としての内証を確証されるや、初めて御本尊を顕されたのでありま
す。大聖人の御内証においては、久遠の仏としての御境地は、すでに赫々
としてあられたと拝察します。恩師戸田城聖先生は「清澄寺大衆中」の御
文を講義された際、大聖人は、虚空蔵菩薩に、日本第一の智者となし給え
と祈願された清澄寺在住の時、すでに御本仏と覺られたと拝せると言われ
ておりました。事実、もし、末法御本仏としての御境界を得ておられな
かったならば、三十二歳の立宗宣言もなかったはずであります。時すでに
釈尊の白法は隠没した末法であることは明々であり、したがって釈尊の
仏法をもって立てられる道理がありません。釈尊の仏法ではない新たなる
仏法を立てられたことは、御自身が末法救済の御本仏であるとの御確信があ
ったればこそであります。一と。

また、須田晴夫氏の著作「『創価学会教学要綱』と日蓮本仏論の考察」の
男子部教学室「論考」への応答一（128，129頁）には一

「論考」が「釈尊も大聖人も、根本の法である南無妙法蓮華経によって
仏になった」とするのは仏法の初歩についても無知をさらけ出している。
法華経寿量品において釈迦仏は五百塵点劫という長遠の昔に初めて成仏と
いう結果(仏果)を得たと説かれる。結果がある以上、原因がある道理だが、
その成仏の原因(仏因)は「我本行菩薩道」の文に一示されている。すなわち
釈迦仏は菩薩の時に修行した根源の妙法(南無妙法蓮華経)によって仏果を得
た本果の仏である。

しかし、日蓮は南無妙法蓮華經によって仏になった仏ではない。立宗の当初から南無妙法蓮華經を弘めた日蓮は諸仏を成仏させた仏因である南無妙法蓮華經を本来所持している本因の仏である。日蓮が十六歳の時に覚知したというのは自身が妙法と一体の仏であることを覚知したのである。

そこで、日蓮について南無妙法蓮華經によって仏になったと捉えるのは本果と本因の区別を無視した「因果否定」となる。因果は仏教の根本であり、因果を否定したならば仏教にならない 拙著でも述べたように、南無妙法蓮華經は人格のない単なる理法ではない。**南無妙法蓮華經に人格性が具わる**からこそ「三世の諸仏の師範」（「煩惱即菩提の事」一五二〇頁）となりうるのである。南無妙法蓮華經に具わる人格は無始無終の根源仏であり、それを「本因妙抄」「百六箇抄」などの相伝書は「**久遠元初自受用身**」と表現したのである一と。

（私見）大聖人様の16歳での妙法の覚知を認めなければ、上記のように男子部教室が、いかに「教学要綱」を正当化しても破綻なのです。

須田晴夫著「新版 日蓮の思想と生涯」21, 22頁には、さらに、明確です。

第三章 悟りと遊学

1 根底の真理を覚知

十六歳の時、正式に得度した日蓮は、以前にも増して真剣な求道が続けた。疑問に答えてくれる師匠もなく、ひたすら經典等の文献を頼りに主体的な思索を重ねていた日蓮は、真理を求めて清澄寺の本尊である虚空蔵菩薩像に強く祈願した。

思索と祈りに貫かれた激しい求道は、遂にある日、重大な宗教体験をもたらすこととなった。

この体験について、御書には次のように述べられている。

「生身の虚空蔵菩薩より大智慧を給わりしことありき。
『日本第一の智者となし給え』と申せしことを不便とや思しめしけん、明星の如くなる大宝珠を給びて右の袖にうけとり候いし故に、一切経を見候いしかば、八宗並びに一切経の勝劣ほぼこれを知りぬ」（「清澄寺大衆中」八九三頁）

「幼少の時より虚空蔵菩薩に願を立てて云わく、『日本第一の智者となし給え』と云々。虚空蔵菩薩、眼前に高僧とならせ給いて、明星の如くなる智慧の宝珠を授けさせ給いき。そのしるしにや、日本国の八宗並びに禅宗・念仏宗等の大綱、ほぼ何い侍りぬ」（『善無畏三藏抄』八八八頁）
この宗教体験の意義をどのように捉えるかが重要な問題となる。いずれにしても、この体験によって日蓮は、各宗派や一切経の勝劣を明瞭に把握できる境地に到達したと述べている。

各宗派や一切経の勝劣を知るとは、その判断の基準となる根底の真理を得たことを意味している。つまり、日蓮はこの時、宇宙根源の法すなわち妙法そのものを覚知したと考えられる。この点について戸田城聖創価学会第二代会長は「われらが御本仏日蓮大聖人は、御年十六歳にして人類救済の大願に目覚められ、かつまた宇宙の哲理をお悟りあそばされて」（『戸田城聖全集』第三卷二九二頁、昭和三十一年の年頭の言葉）として、日蓮は十六歳の時に「宇宙の哲理」を悟ったとの認識を述べている。

日蓮に悟りをもたらした虚空蔵菩薩は清澄寺でまつつていた真言密教の本尊ではなく、日蓮己心の虚空蔵菩薩というべきであろう。虚空蔵とは文字通り大宇宙を意味する。大宇宙を貫く智慧の人格的表現が虚空蔵菩薩であるからである。

日蓮自身の内部において、このとき根源の妙法が把握されたというべきであろう。そこで次に、その悟りを經典の上から確認し、諸宗の教義を検証する作業に移ったと考えられる。しかし、仏教の奥底まで研究することは地方寺院の清澄寺では不可能であった。そこで日蓮は、鎌倉・京都・叡山などへの遊学に踏み切ることとなった。

上記、**池田先生の本当のご指導**、また、**須田晴夫氏**の論証より5月10日の聖教新聞は、池田先生への不知恩の作文である！と断言します。

2015年の「教学入門」4頁には— 大聖人は、仏法を究めるために、**16歳の時**、清澄寺の道善房を師匠として出家されました。このころ、「**明星のごとくなる智慧の宝珠**」（全888頁）を得られたと述べられています。**これは、仏法の根底というべき「妙法」についての智慧と拝されます**—と。しかし、5月10日の聖教新聞には、16歳の妙法の覚知が記されていない！これは「教学要綱」と全く同じである。また大白蓮華4月号54頁任用試験の教材「教学入門」の冒頭にも、全く記述がない。これでは、日蓮大聖人がいつ妙法を覚知されたのか任用受験者には分からない。こんなことでいいのか！「教学要綱」も日蓮仏法の本義を記していない！と言わざるを得ない。以上、全てについての説明責任は教学部にあり！

私は、2年以上前より、「**教学要綱**」が**池田先生のご指導—文底が説かれて
仏法は完結—**を無視、実質的に日蓮本仏論を否定し、釈迦本仏論であること、また、その邪義が大白蓮華と聖教新聞にも及んでいることを地域で訴えました。その後、二度、会館にて幹部二人から別々に「**あなたは破和合僧です**」と言われました。そして先月19日、幹部より「**あなたは自活サイトへの投稿を
続け、組織を攪乱し大白蓮華と聖教新聞を批判した**」として、県主事の役職を解任されました。抗弁の機会はなく、さらには、地域組織まで凶斉とは接触するな、連絡があったら拒否するようにと伝達されました。

しかし、その後、以前の拙文 <https://share.google/nockjub7J9rVICGSZ> と今回の拙文で判明した通り、大白蓮華と聖教新聞の不正は明らかです。なぜ、誤りを指摘しただけで役職の解任までされるのか！それも何の抗弁もできずにです。これは学会組織の偏向性である。私はこの10月で入信71年となります。**池田先生から垂教頂きました日蓮仏法の真義**を厳護するべく、今後も命ある限り、破邪顕正をして参ります。私は御本尊様に誓って自分は間違いを犯しているとは思っていませんし、「**破和合僧**」であるとも思っていません。

池田先生は「法華経の智慧」 寿量品講義で以下ご指導です。—

敢然と「獅子王の心」で戦うのです。「獅子奮迅」の力を出すための法華経です。「師子奮迅之力」（涌出品、法華経四六三ページ）を出すのが地涌の仏であり、菩薩です。**邪悪に対しては、それこそ阿修羅のように戦わなければならない。**“**仏法は勝負**”であり、**勝つ以外にない。**「広宣流布のために」戦い切れば、修羅の生命も仏の働きをする。十界互具です。その奮闘には三世十方の仏菩薩が「あっぱれ」と喝采を送るでしょう。—と。

私は、池田先生の本当のご指導を厳守するため、先生のご指導—「**文底が説かれて仏法は完結**」を無視した邪義「**教学要綱**」の絶版を、今後も訴えていきます。

この拙文を親しき友人にもお伝え下さい。そして、皆様の忌憚なきご高見、ご指導を kiroibara.526@gmail.com に、お願い申し上げます。

敬具 凶斉修

なお、次頁に、私のこれまでの拙文を掲示、ご案内しました。ご高覧下さい。

(アテンション7編)

2025. 1. 16 池田先生の「法華経 方便品・寿量品講義」の「改ざん」の実態が一目瞭然！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/uO8aTHHsn1Uq1oGgI>
2025. 2. 20 教義改竄の実態を具体的に解説 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/rUvbUCzMZRZbgMZN9>
2025. 4. 15 戸田先生のご指導とも大違背の「新版 法華経方便品・自我偈講義」の邪説 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
<https://share.google/QyfOUjtjPR4M56JeM>
2025. 5. 7 凶齋氏が追撃弾！全く反論不能の現創価学会 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/4nbtX3NTNkpJrbssF>
2025. 8. 24 池田先生入信記念日に、破邪顕正の論考発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/YDDWNXEzTifXcgm5W>
2025. 9. 12 凶齋氏が「教学要綱の不正」の続編を発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/pX63bWIXdPfnXGJUI>
2025. 11. 18 創立95周年を期して、凶齋氏が悪書「教学要綱」に更なる鉄槌の論考発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
<https://share.google/DcQaf0Yo9GmOx5OA5>

(宗学コラム 20編)

2025. 9. 29 「現代誤訳 四信五品抄 本尊問答抄」を読んで - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/rxk8T0hxyy552wGO9>
2025. 11. 28 魂の独立記念日に思う―「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/HhDdCFoFWcSVkEpyV>
2025. 12. 8 創立 95 周年、年末に思う―「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/ngk4Ij0YIJN72ltCL>
2025. 12. 13 釈尊を「永遠の仏」とする聖教新聞の邪義！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/3bnY4oR23fnDlsOWn>
2025. 12. 18 (続) 釈尊を「永遠の仏」とする聖教新聞の邪義！
―AI が聖教新聞の不可解で詐欺的な文献引用姿勢を解説！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/gst62rydMRpYdfxLk>

2026. 1. 2 池田先生のご生誕日に思う - 「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/7Mw8y9QBF7JYNknVw>

2026. 1. 3 (続) 池田先生のご生誕日に思う - 「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/cjLL8ideWXGxQtdva>

2026. 1. 10 (更なる続き)池田先生のご生誕日に思う—「教学要綱」の不正 池田先生の著作指導の AI 検索化への疑問 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/qMXKT1RxcValTz3rS>

2026. 1. 18 「御義口伝講義」を改竄の「我らは地涌の菩薩なり」を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/10L0rreurRQPmPSQE>

2026. 2. 11 戸田先生のご生誕日に思う—「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/CdecUV1NhwTWEihyZ>

2026. 2. 11 戸田・池田両先生のご指導に違背した大白蓮華1月号を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/PtMs4fNQNzbCYj8r>

2026. 2. 16 日蓮大聖人のご生誕日に思う - 近刊「法華経入門」の不正 池田先生が「法華経の智慧」でご指導された日蓮仏法の真義を無視する不知恩の書 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/deY6hFeRD9rDYmoKs>

2026. 2. 26 (続) 日蓮大聖人のご生誕日に思う - 近刊「法華経入門」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/RHxWjzbGsiRq7CSwp>

2026. 2. 28 「開目抄」ご執筆の二月に思う新刊-「御書根本」の大道-の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
<https://share.google/vwHKdmkzPDHsMWKOz>

2026. 3. 16 3.16 に思う—新刊「御書と師弟」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/EP88GIsjWEMdbOTPG>

2026. 3. 20 「寿量の仏」を釈尊と回答する「SOKA D.I. SEARCH」の不正 御本尊様の相貌について大謗法の検索は即刻、廃止すべきである - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト
ト <https://share.google/lcZcm0F3ELamfWU0Z>

2026. 3. 29 「教学要綱」の不正記述13、及び、無視、削除された日蓮仏法の本義 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイ

ト <https://share.google/bW93pyQ684XYcNsFA>

2026. 4. 2 (追記版) 「教学要綱」の不正記述13、及び、無視、削除された日蓮仏法の本義2つ他 戸田城聖先生のご命日に、邪義 - 「寿量の仏」は釈尊 - を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイ

ト <https://share.google/OSyp1HG6fUZVuTu2p>

2026. 4. 28 立宗宣言の日に糺すー「教学要綱」の重大な不正・邪義17他 池田先生のご指導「文底が説かれて仏法は完結」を無視した邪義「教学要綱」を、破邪顕正する！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイ

ト <https://share.google/GDOcjCy25oTd57PTY>

2026. 5. 8 「池田大作 御書と師弟 新版」の改変問題他 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/WIZmiOVyZUcQTsOGx>